

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成30年11月22日(2018.11.22)

【公表番号】特表2017-530184(P2017-530184A)

【公表日】平成29年10月12日(2017.10.12)

【年通号数】公開・登録公報2017-039

【出願番号】特願2017-518978(P2017-518978)

【国際特許分類】

C 07 J	5/00	(2006.01)
A 61 K	31/573	(2006.01)
A 61 P	35/00	(2006.01)
A 61 P	35/04	(2006.01)
A 61 P	43/00	(2006.01)
A 61 K	45/00	(2006.01)

【F I】

C 07 J	5/00	C S P
A 61 K	31/573	
A 61 P	35/00	
A 61 P	35/04	
A 61 P	43/00	1 1 1
A 61 K	45/00	
A 61 P	43/00	1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成30年10月5日(2018.10.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

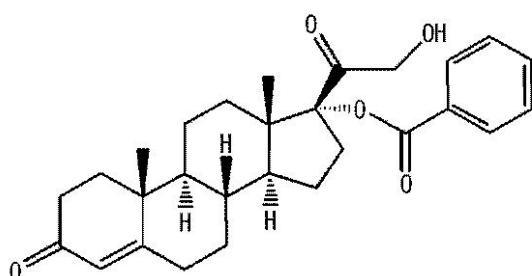
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下式

【化1】



コルテキソロン17 α -ベンゾエート

を有する化合物と、少なくとも1種の生理学的に許容可能な賦形剤とを含むことを特徴とする薬剤組成物。

【請求項2】

医薬としての使用のための、請求項1に記載の薬剤組成物。

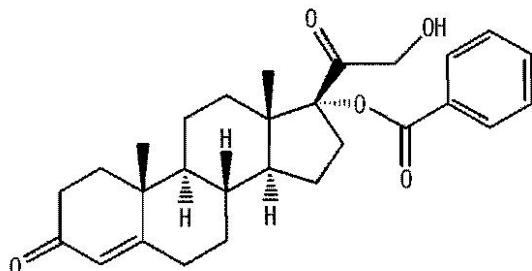
【請求項3】

抗腫瘍剤としての使用のための、請求項 2 に記載の薬剤組成物。

【請求項 4】

腫瘍性疾病の治療における使用のための、下式

【化 2】

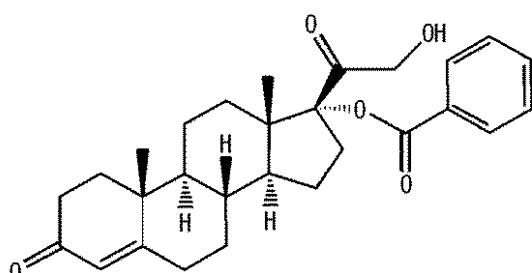


を有する化合物と、少なくとも 1 種の生理学的に許容可能な賦形剤とを含むことを特徴とする薬剤組成物。

【請求項 5】

前癌性病変、異形成病変、または化生の治療における使用のための、下式

【化 3】



を有する化合物と、少なくとも 1 種の生理学的に許容可能な賦形剤とを含むことを特徴とする薬剤組成物。

【請求項 6】

前記腫瘍性疾病は、悪性新形成または転移を含むことを特徴とする請求項 4 に記載の薬剤組成物。

【請求項 7】

前記腫瘍性疾病は充実性腫瘍、好ましくは、前立腺カルシノーマ、乳カルシノーマ、肺カルシノーマ、肺カルシノーマ、結腸カルシノーマのような消化管カルシノーマ、腎臓癌、甲状腺カルシノーマ、子宮カルシノーマ、副腎カルシノーマのような上皮性腫瘍であることを特徴とする請求項 4 または 6 に記載の薬剤組成物。

【請求項 8】

前記上皮性腫瘍は、前立腺カルシノーマであり、好ましくは前記前立腺カルシノーマは、エンザルタミドのような抗アンドロゲンを標的とする治療法に抵抗性であるか、または抵抗性となったものであることを特徴とする請求項 7 に記載の薬剤組成物。

【請求項 9】

前記上皮性腫瘍は、肺カルシノーマ、好ましくは肺外分泌部カルシノーマであることを特徴とする請求項 7 に記載の薬剤組成物。

【請求項 10】

前記上皮性腫瘍は、乳カルシノーマであることを特徴とする請求項 7 に記載の薬剤組成物。

【請求項 11】

前記乳カルシノーマは、トリプルネガティブ乳癌であることを特徴とする請求項 10 に記載の薬剤組成物。

【請求項 1 2】

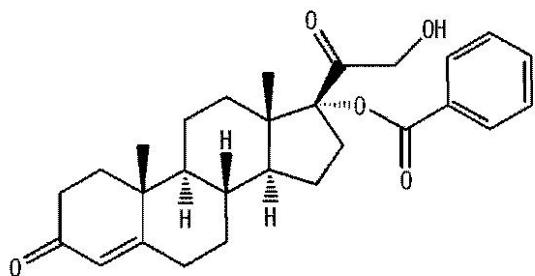
前記乳カルシノーマは、再発者または慣用の治療法に対するノンレスポンダーである被験者内にあることを特徴とする請求項 1 1 に記載の薬剤組成物。

【請求項 1 3】

前記上皮性腫瘍は、結腸カルシノーマのような消化管カルシノーマであることを特徴とする請求項 7 に記載の薬剤組成物。

【請求項 1 4】

グルココルチコイド受容体 (G R) 調節因子としての使用、好ましくはグルココルチコイドアンタゴニストとしての使用のための、下式

【化 4】

を有する化合物を含むことを特徴とする薬剤組成物。

【請求項 1 5】

同一の薬剤組成物または別個の薬剤組成物中に少なくとも 1 種の別の活性成分を含む請求項 1 から 1 4 のいずれかに記載の薬剤組成物であって、前記少なくとも 1 種の別の活性成分は化学療法活性成分であり、前記別個の薬剤組成物は、同時投与、別個投与または順次投与に好適であることを特徴とする薬剤組成物。